

# 事業報告

講座名	環境学習講演会		
日時	平成24年12月 2日(日) 13:30~15:00		
場所	山口県セミナーパーク	参加者数	207人

- ◇ 演 題 「海と共に生きる」～震災復興と森は海の恋人運動～
- ◇ 講 師 NPO法人森は海の恋人理事長 畠山重篤氏
- ◇ 講演内容

講師は、自分が30年前より取り組んできた「森は海の恋人運動」の経緯や実績、効果等について、また、最近わかってきた植物プランクトンと鉄との関係などについて具体的に講演された。

## 〈講演の要旨〉

三陸はもともと津波の多い所で、一生の間に2回は津波に遭遇する厳しい所。今回、大津波の被害を受けながら、誰も、海を恨む気持ちは全く持っていない。海が好きで、海に対する愛着があり、海辺に戻ろうとしている。

## ◎森は海の恋人運動



良い牡蠣を作るためには、海に流れ込む川が大事で、背景には山があり、流域の環境が大事であることを30年前に気づき、森と川と海を一緒に考えなければいけないと思い、それを人に伝えるために、漁師が山に木を植えることを始めた。

「森は海の恋人」というスローガンを掲げ、平成元年より落葉樹を約40種類植えており、植えた木は5~6万本になる。

また、流域の住民が、森と川と海が一つのものという意識を持たなければ川も海もきれいにならないと考え、平成2年より流域の子供達を海に招き体験学習を続けており、参加した子供達は1万人を超える。

子供から親へ伝わり、流域全体の住民達に、森と川と海が繋がっているという意識が芽生え始め、農家の人達も、農薬とか肥料を考えるようになり、環境保全型農業への切

り替えが進み、川や海はだんだんと良くなってきた。

地元の大川では鮭が6万匹も遡上し、湾には小魚も戻ってきた。水生昆虫の調査では、5～6年前より上流から下流まで同じ昆虫の生息が確認されており、流域全体が良くなっている。

#### ◎森と海を繋ぐ鉄の役割

取組には、メカニズムの研究やデータの的なものも必要で、植物と鉄分との関係を学んだ。植物は、葉緑素（クロロフィル）を作るのに、鉄の力が必要。

現在の海は極端な貧鉄であり、海水中の鉄濃度は1 L中に1 ngしかない。海水中には、N（窒素）・P（磷）はたくさんあるのに、植物プランクトンが少ない（増えない）海域がある。

広葉樹等の葉が落ちて腐葉土ができ、土の中で分解されフミン酸が残り、この鉄を溶かす作用で鉄が水に溶け出す。もう一つの成分のフルボ酸が溶け出した鉄を保護し、海まで鉄（フルボ酸鉄）を運び、植物プランクトンに鉄を提供する。

森の中で作られたフルボ酸が、植物プランクトンが鉄を利用するのを助けることがわかった。

日本には、2級河川を含め、大小35,000本の河川があり、ほとんどにダムがある。ダムにはフルボ酸鉄が溜まっており、これを海に供給すれば海は豊かになる。海まで運ぶ土木技術の開発等を進めるべき。

水産行政は、これまで魚が獲れなくなると人工的に稚魚を放流してきたが、稚魚を放流するだけで海が豊かになるわけではない。